

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

これまで発行した
CS通信や「コミュニ
ティ・スクール」に関
する情報はこちらへ



北海道 子ども地域支援

検索

《子ども地域支援グループHP》

コミュニティ・スクール推進協議会(留萌)

去る9月13日(金)、留萌管内(会場:留萌合同庁舎、参加者17名)で、コミュニティ・スクール推進協議会が開催されました。講話と実践発表の概要を紹介します。

■ 講話 ～学校と地域の連携・協働体制の構築の工夫～ 占冠村立占冠中央小学校長 森野 憲 仁 氏

- 占冠村におけるCS導入は、地域の強い願いを背景に推進されている。
- 占冠中央小学校は平成26年度から、トマム小中学校と占冠中学校は平成28年度からCSを導入している。
- CS導入の流れと並行して、平成29年度にトマム小中学校が義務教育学校となり、平成30年度に占冠中央小学校と占冠中学校は施設分離型小中一貫校となった。
- 義務教育学校や小中一貫校への移行期には、地域住民や保護者、教職員による「9年間の子どもたちの育ちをどう捉えるか」というテーマで熟議を行い、小・中学校の文化の違いを確認することができた。
- 学校運営協議会で話し合われた子どもたちに身に付けさせたい資質・能力に基づき、「Show&Tell」(身近なものを見せながら自分の言葉で説明する活動)や村議会議員と中学生によるCS議会、北海道大学との遠隔授業、地域おこし協力隊を講師とした授業など、様々な取組を行っている。
- 既存の学校行事等を見直す際もCSの仕組みは有効である。子どもたちに身に付けさせたい資質・能力等の視点で、行事の削減や縮小について学校運営協議会に諮ると、円滑に物事が進み、先生方の負担感も軽減する。職員室で先生方だけで悩むよりも早く物事が進む。
- CSを導入して3年ほど経過したときに、地域の方から、子どもたちの様子について「表情が明るくなった」「人前で自信をもって話すことができるようになった」「コミュニケーション能力が育ち、子ども同士が仲良くなった」などの声が聞かれるようになった。
- 現在の体制や取組は導入当初から上手くいっていたわけではない。1年目は、具体的な動きはなく、教職員の共通理解に時間を費やした。
- 2年目から具体的な動きが見え始め、トータル6年で現在の姿がある。
- 学校運営に関わる多くの課題を解決することができ、この6年を振り返るとCSを導入してよかったと思っている。



森野校長先生は、CSの導入から現在に至るまで、占冠中央小学校に勤務されています。

■ 実践発表 羽幌町立天売小学校教頭 吉田 久 氏

- 天売小学校は、平成29年4月にCSを導入した。
- CSの仕組みを生かして「学習支援事業」「校務支援事業」「活動支援事業」「環境整備事業」「地域活性化事業」の5つの事業を実施している。
- これまで、教職員だけでは取り組むことが難しかった蔵書点検やグラウンド整備が地域住民の協力により実施できた。
- カヤック体験や森林教室など、子どもたちの体験活動を充実することができた。



コミュニティ・スクール推進協議会(日高、宗谷、石狩、釧路)

9月4日(水)には日高管内で(会場:日高合同庁舎、参加者22名)、9月5日(木)には宗谷管内で(会場:宗谷合同庁舎、参加者18名)、9月9日(月)には石狩管内で(会場:赤れんが庁舎、参加者:20名)、9月11日(水)には釧路管内で(会場:釧路教育研究センター、参加者28名)でコミュニティ・スクール推進協議会が開催されました。各会場での実践発表の一部を紹介いたします。

■日高管内

安平町教育委員会教育次長 永桶 憲義 氏

- 社会教育と学校教育の関係を明確にし、後世につなぐことを目指し、町内の全幼・小・中・高にCSを導入している。
- 学校運営協議会では、委員の皆さんが本音で話し合える関係になっており、学校運営協議会の意見が、関係者や関係機関を動かしていると感じている。
- 防災キャンプなど、学校運営協議会が主催する取組もある。



■宗谷管内

士別市教育委員会教育管理監 藤田 泰昭 氏

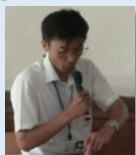
- 学校運営協議会と地域学校協働本部を一体化した組織体制としている。
- 地区ごとにコーディネーターを置き、地域人材を活用する際の窓口、CSに係る事務、CS通信の発行等を行っている。
- 学校の先生方にCSのメリットを感じてもらうことも大切であると考え、先生方が日頃から感じている課題等を、学校運営協議会の議題として取り上げている



■石狩管内

千歳市立高台小学校教頭 鎌田 定男 氏

- 導入1年目は、CSの制度について、保護者や地域住民、学校の教職員の理解を深める取組を重点的に行った。
- 導入2年目は、学校・家庭・地域の協働体制の構築を目指し、CSの各部会と学校の校務分掌が連動するよう組織体制を見直した。
- 学校評価の評価項目に、CSの推進に関する成果と課題を取りまとめている。先生方からは「地域の方による学習支援ボランティアが非常に助かった」などの声が聞かれている。



■釧路管内

釧路市地域学校協働本部

統括的な地域学校協働活動推進委員 森 敏隆 氏

- 導入の際に大切なことは、学校の教職員の共通理解を図ることである。
- 釧路市では、従来から行っていた学校支援ボランティアの仕組みを生かしてCSの導入につなげた。
- CSの役割の一つである学校運営の基本方針の承認を大切に、委員の方に、学校や子どもの実情を十分に理解してもらえるように工夫している。



CSの導入により変わったことは？①(推進協議会アンケートの記述から)

- ミッション、習字などの学習支援により、効果的・効率的に指導ができるようになり、先生方の負担感が軽減されました。
- 保護者や地域の方が、子どもたちをすごく褒めてくれます。このことが、子どもの自己肯定感を高め、教職員も別の視点から子どもを見直すきっかけになっています。
- 保護者と学校の距離が近くなりました。
- 地域と学校間のコミュニケーションが増え、相互理解が深まりました。
- 安全・安心な地域を目指して、学校の避難訓練に合わせて地域の避難訓練を実施することができるようになりました。
- 地域には熱い思いをもった人が意外とおられることが学校に伝わったと思います。

【担当から】各管内での実践発表や熟議から、CSの仕組みを効果的に機能させるためには、学校の教職員がCS導入のメリットを実感できることが大切であると感じています。先生方が日頃から感じている課題等を整理し学校運営協議会の議題とすることや、学校行事の見直しに学校運営協議会を活用するなどの取組は大変参考になりました。(担当:子ども地域支援G 主査 吉村公孝)